

この一冊

村上 誠一郎
衆議院議員



気呵成に読んで勇気づけられたのがこの小説で、私の政治活動の原点となった思い出深い一冊です。

私が河本敏夫先生に勧められて三十一歳で衆院選に立候補した時、選挙区

には現職三人を含む計

六人の候補がおり、当選は到底無理だと言われました。その時、一挙兵です。元治元

天才的な革命家の「夢への飛翔」に感激

う高杉の生きざまに少しでも近づきたいと思ったからです。

す。

いつの場合でも狂言作者と役者をかねていたが、このとき舞台は雪の功山寺境内であり、相手役は都の貴人たちであった。時期は、長州の絶望的な政治的季節であり、そのときに吐くべき台詞をこの男はみごとに作り出しています。

高杉は直感力に優れたリアリストとして現実を冷徹に見抜き、的確な戦略・戦術を立案しました。司馬遼太郎さんはその実践に命をかけた若者の「夢への飛翔」を見事に再現し、現代のような複雑な社会情勢の下ではなかなかストレートにものが言えず、行動できません。だからこそ、松陰や晋作のような純粋で真つすべな言動に胸を熱くするのです。

「世に棲む日日」(全四巻)

司馬遼太郎著
文藝春秋社